

令和
6
年度版

作文の友 2

～書くこと 大すき～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

2	年		く み	名 まえ	
----------	---	--	--------	---------	--

こんなことを
しているよ



作文の友

～書くこと 大すき～

2



もくじ

①	こんなことをしているよ……2
	・丸(まる)。()、点(てん) ()、かぎ() ()……8
②	本は友だち……10 ・読書かんそう文を書こう
③	絵を見てお話を書こう……22
④	「どうぶつカード」を作ろう……26
⑤	同じところ、ちがうところ……29
⑥	くらべてつたえよう……31

家でしていることを
友だちに つたえる 文しよ
うを 書きましよう。 友だち
が 分かりやすいように、文
しよの 組み立てを 考え
て 書きましよう。

書くことが きたったら、
くわしく 思い出して、じゆ
んじよよく 書いて みま
しよう。

一 友だちに つたえたい ことを 考え、メモに 書き
 出しましょう。教科書77ページの 青木さんの メモを
 手本に して、書きましょう。

のこと

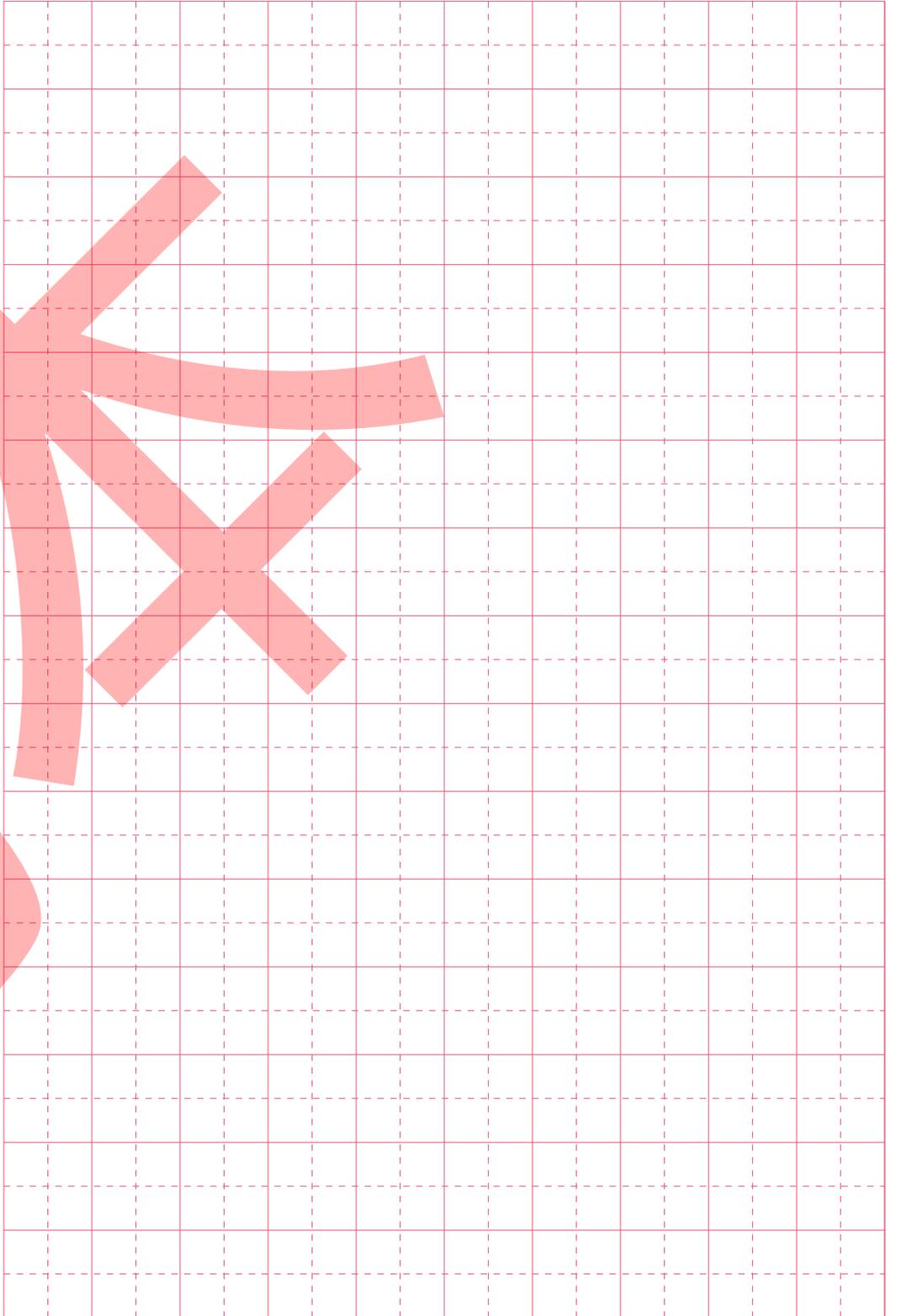
○	○
○	○

二 友だちが 書いた 文しようです。どんな じゆん
 じよで 書いて いるのか 読んで みましょう。

はじめ ○ぼくは、家でさらあらいをし ています。	○さらあらいをするときは、まず、 よごれたさらを、水につけておき ます。つぎに、せんざいをつけた 中 スポンジで、さらをあらいます。 さらをわらないように気をつけて やさしくこすります。さいごに、 水であわをながします。さらあら いをするとおかあさんが、
--------------------------------	--

はじめ
何について
つたえるかを 書く。

中
つたえたい ことに
ついて、くわしく 書く。



丸(まる)。(と)点(てん)。(の)つかい方(かた)

○教科書80ページを読んで、上の文(ぶん)し(し)よう(よう)を、下の原(げん)こ(こう)用(よう)紙(し)に正(ただ)しい書き方(かた)で書(か)きう(う)つ(つ)し(し)ま(ま)し(し)よ(よ)う(う)。

ぼくは、家でさらあら

らいをしています。

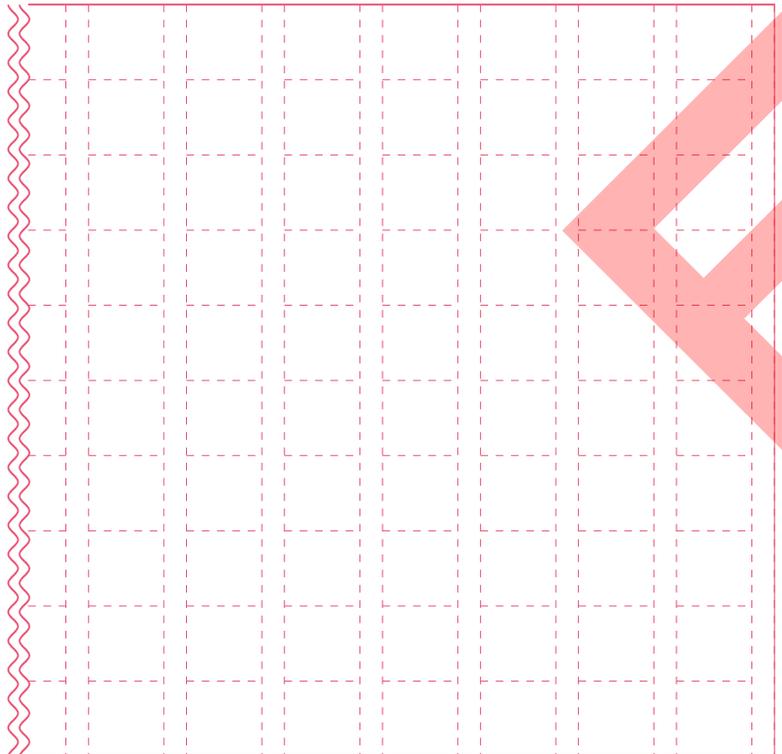
さらあらいをすると

きは、まず、よごれた

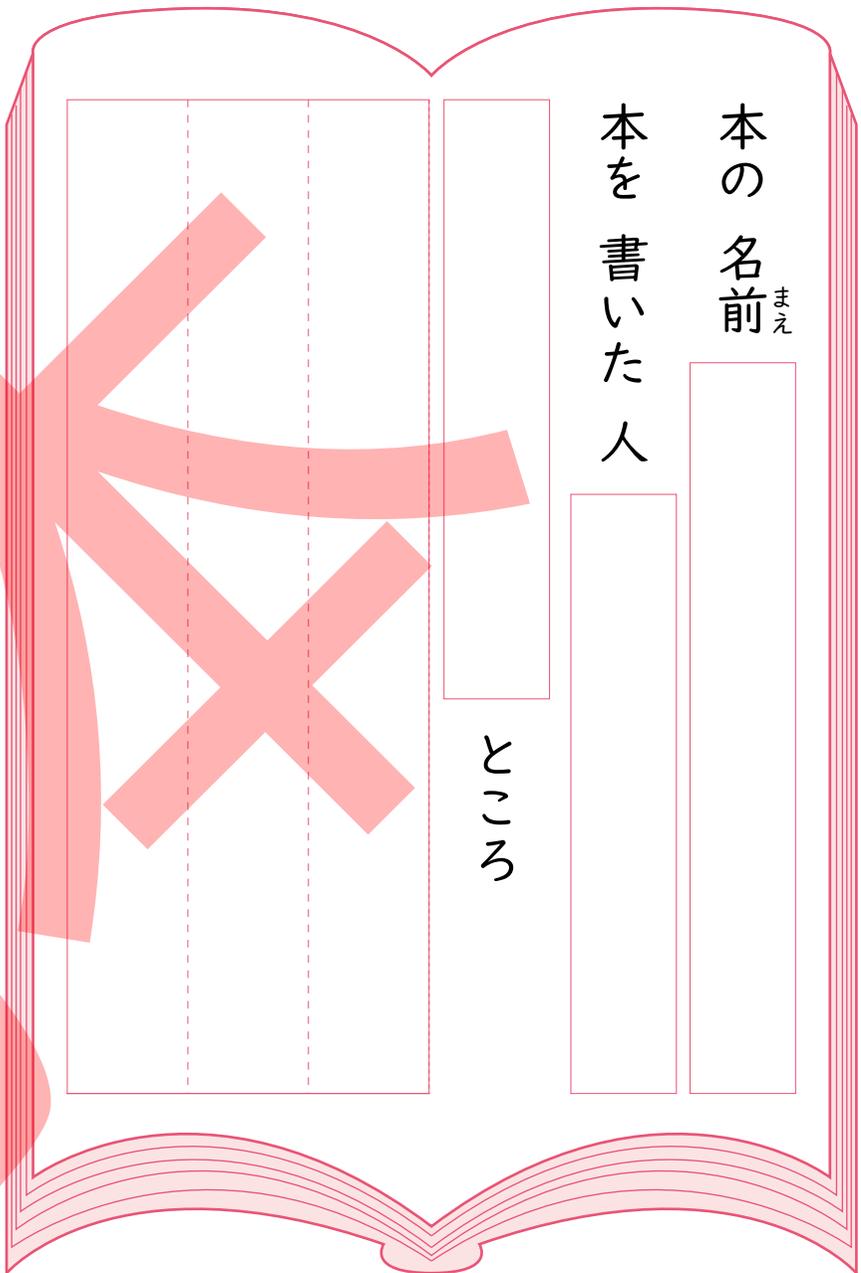
さらを、水につけてお

きます。そして、せん

ざいをつけたスポンジ



一 あなたの読んだお話の^{はなし}ことを「お話カード」
に書いてみましょう。



- 心にのこったところ
- ・おもしろかったところ
- ・やさしいと思ったところ
- ・かなしかったところ
- など

二 よし子さんは、「おまえうまそうだな」という本
を^を読んで、アからオに^について書き出しながら
かんそう文を書きました。読んでみましょう。

アこの本を読む
ことになったわけ

国語^{こくご}のじゆぎょうで、「あしたも友
だち」というものがたりを^を読みました。
その後、先生が「おまえうまそうだな」
という本を^をしようかいしてくれたの
で読んでみました。

イお話のあらすじ

これは、大むかしのきょうりゆうの
お話でした。テイラノサウルスを^{じぶん}自分の

お父さんだと 思いこんで しまった アンキロサウルスの 赤ちゃんが、いろいろ な かんちがいを くりかえす うちに、 だんだん 本当の 親子みたいに なって いくと いう お話でした。

ウ 心に のこった

ところ

・おもしろかったと
ころ

生まれたばかりの アンキロサウルスの 赤ちゃんが、つぎつぎに かんちがいして いくのが おもしろかったです。いちばん おもしろかったのは、ティラノサウルスに、 「おまえ うまそうだな。」と 言われた とき、自分の 名前を 「ウマソウ」だと

思いこんで しまった ところですよ。ここ は、声を出して わらって しまいました た。それに、自分の 名前を 知っている から お父さんだと かんちがいしたと ころも おもしろかったです。

・やさしいと 思った
ところ

それから、二人とも やさしいと 思い ました。ウマソウは、自分の 食べてい た 草を ティラノサウルスに あげまし た。でも、あまり すきそうじゃ なかつ たので、毎日、山から 赤い みを とつ て きました。ティラノサウルスは、肉食

なのに、それを食べて、「おいしいよ。」
と言ってあげました。それに、ウマソ
ウが キラントイサウルスに 食べられそ
うに なった とき、まもって あげたり、
いろんな ことを 教^{おし}えて あげたり し
ました。

わたしは、さいしょ、ウマソウは ティ
ラノサウルスに 食べられちゃうと 思っ
て ときどきしていたけれど、二人とも
とても やさしかったから、本当の 親子
みたいに なれたのだと 思いました。

・かなしかったとこ
ろ

いちばん さい後の おわかれする と
ころは、少^{すこ}し かなしくて、なみだが 出
そうに なりました。

エ 本を 読んで
思い出した こと
・にていると 思った
こと

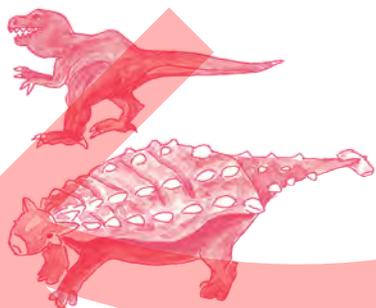
この 本を 読んで いたら、「あした
も 友だち」と にて いる ところを
見つけました。「あしたも 友だち」に
出てくる おおかみも、この 本の ティ
ラノサウルスも らんぼうものと きまっ
て いました。でも、二人とも 弱^{よわ}い あ
い手に やさしくして あげました。見た
目は こわそうでも、心は ちがうんだな

と 思いました。

オ 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

わたしには、今、ちょっと 話しにくい
友だちや、こわいと 思っている 人が
います。でも、ウマソウのように あい手
を いい 人だと思っ 話して みる
と、本当の 友だちに なれるかも しれ
ません。これから、にが手な 人とも、話
してみようかなと 思います。

著者 宮西達也
書名 「おまえうまそうだな」
発行所 ポプラ社



三 よし子さんの かんそう文を 手本に して、あなた
も 下の だんに 書いて みましよう。

本の名前

本を書いた人

ア この 本を 読む
ことになった わけ

イ お話の あらすじ

ウ 心にのこった
ところ

- ・おもしろかったと
ころ
- ・やさしいと 思った
ところ
- ・かなしかった ところ

など

エ 本を 読んで

思い出した こと

- ・もし 自分だったら
- ・まわりで おきた
にている こと
- ・はんたいの こと

才 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

四 ひょうを もとに、原こう用紙に 書きましよう。

絵^えから そうぞうを 広^{ひろ}げ
て、お話を 書きましよう。
場^ばめんと 場^ばめんの つなが
りを 考えて 書きましよう。

絵を見て お話を 書こう



一 教科書135ページ③の 場めんでは、どんな できごと
が おこるでしょう。場めんの ようすや、人ぶつが
する ことを そうぞうして 書きましよう。

③

二 教科書136・137ページの お話の ③場めんを、人ぶつ
が することや、言う ことなどを よく 考えて
書きましよう。

一 知りたい どうぶつについて しらべて 分かった
ことを せいりして、メモに 書き出しましょう。

二 知りたい ことと、しらべて 分かった こととを
分けて、しらべた どうぶつが よく 分かる 文しよ
うを 書きましよう。

知りたい こと ・しについて、知りたいと 思いました。	
しらべて 分かった こと ・…という ことが、分 かりました。	

「色」「形」「大きさ」「食べ方」
何を くらべたのかな。

くらべた ところ	 [りんご]	 [なし]
色	赤色	うすい みどり色
	丸い	丸い
	なしと 同じ	りんごと 同じ
	かわをむいて 食べる	かわをむいて 食べる

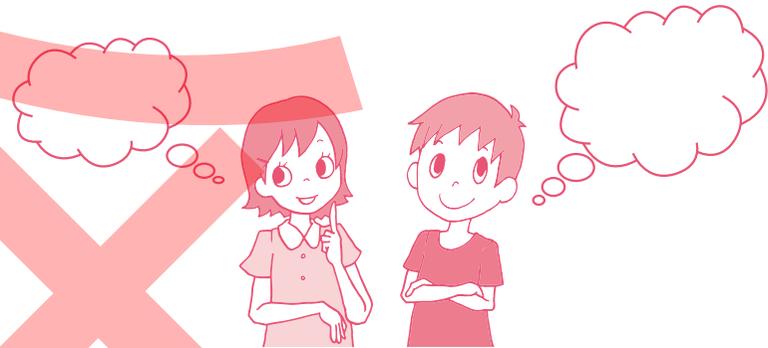
同じ ところ	ちがう ところ
・ 形	・ 色
・	
・	

① 二つを 同じところと ちがうところが 分かるように ひょうに せいり して みましよう。
何を くらべたのか、ひょうに 書きましよう。
また、自分でも くらべる ところを きめて、くらべましよう。
同じところと、ちがう ところを まとめましよう。



同じ ところ、
ちがう ところ

同じ ところ、 ちがう ところ



二つのものをくらべ
て、同じところとちが
うところを見つけま
しよう。
そして、同じところと
ちがうところを せいり
しましよう。



くらべて つたえよう



同じ やくわりをもつ
ものをくらべて、同じ
ところとちがうところ
を見つけましょう。
そして、ものごとく
ちようをはっきりさせ
てせつ明する文しょう
を書きましょう。

一 みの回りにあるものの中から、同じやくわりをもつものを
書き出しましょう。

やくわり

やくわり

やくわり

やくわり

文字を つけくわえる
行を かえる

書きかえる
一ます 下げる

とる

まず、はさみとカッターの同じ
ところを、^はどちらも手をつかって
ものを切るところです。つぎに、
二つの道ぐのちがうところをせつ
明します。

一つ目は、はの数のちがいです。
はさみは、はの数が二つです。カ
ッターは、はの数が一つです。二
つ目は、はをかえられるかどうか
です。はさみは、はをかえること

まず、はさみとカッターの同じ
ところは、^はどちらも手をつかって
ものを切るところです。つぎに、
二つの道ぐのちがうところをせつ
明します。

一つ目は、はの数のちがいです。
はさみは、はの数が二つです。カ
ッターは、はの数が一つです。二
つ目は、はをかえられるかど
うかです。はさみは、はをかえる

四 書き直した ほうが
つかって直しましょう。
つかって、34ページの
(記ごうをつかって 直した文しよう)

よいところを、^き記ごうをつ
書き直す ときの 記ごうを
文しようも 直しましょう。
(書き直した 文しよう)

おわり

中

・思った ことを
書く。

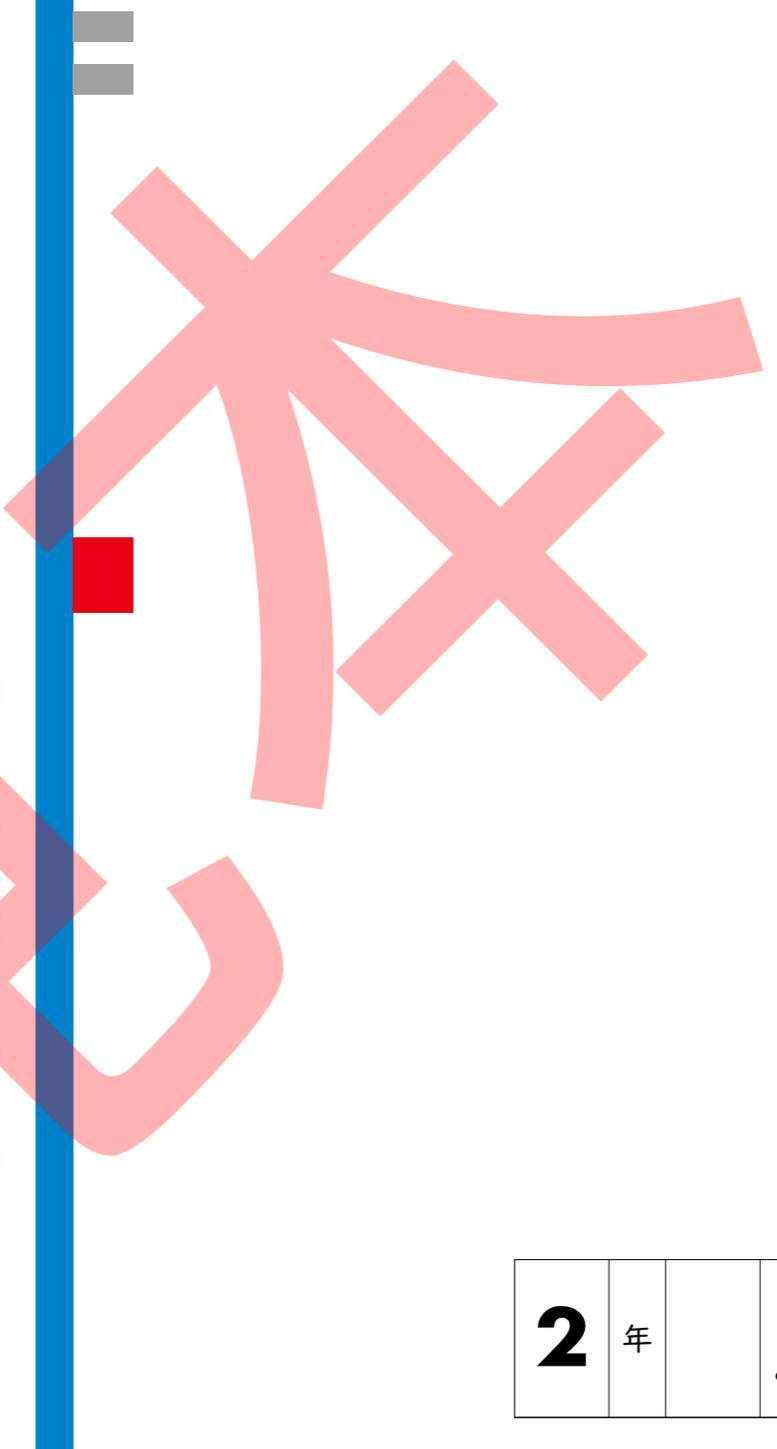
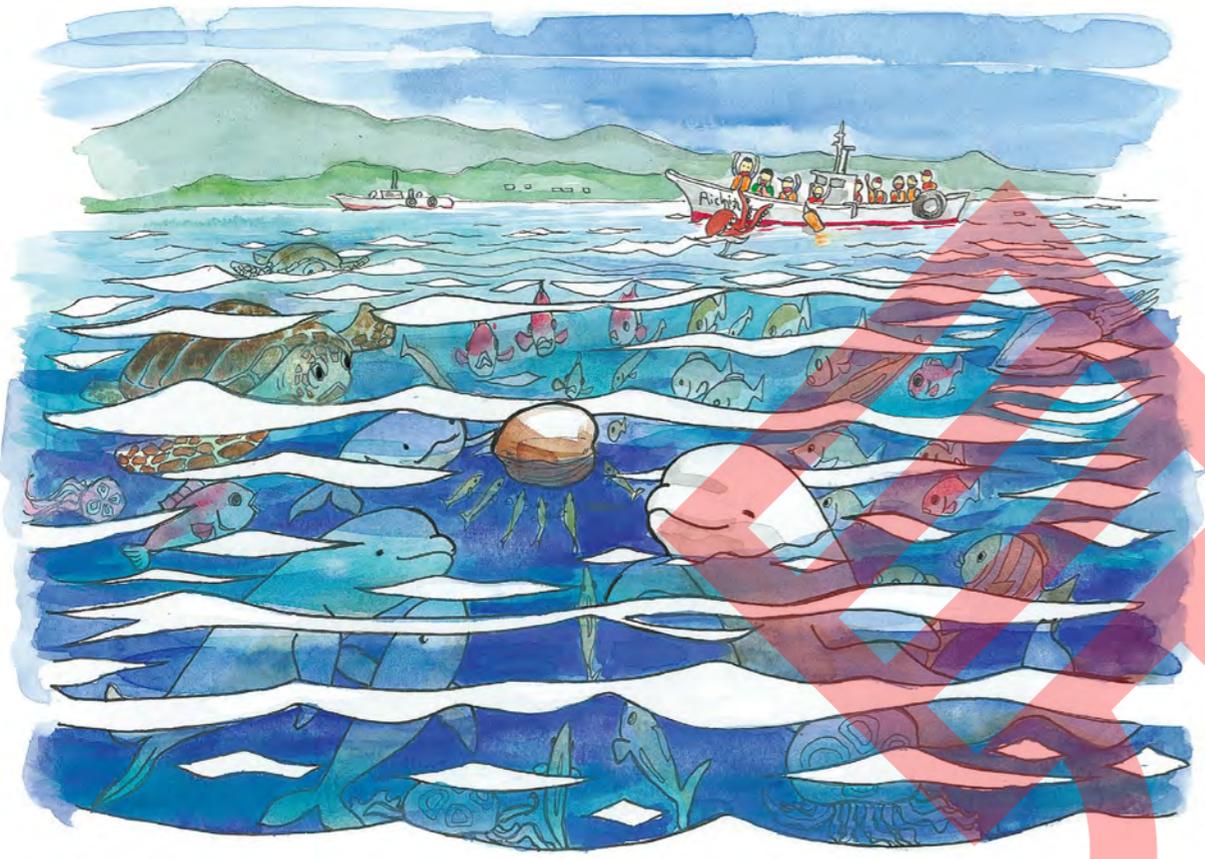
令和
6
年度版

作文の友 2

～書くこと 大すき～

教

指導展開例あり



2	年		く み	名 まえ	
----------	---	--	--------	---------	--

愛知教育文化振興会
三河教育研究会



原稿用紙の正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

だいは二、三マスあける

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

三行目から
書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すときは一マスあけない

話しことば・会話は行をかえる

話しことば・会話の二行目は一マス下げる

話しことばのつぎの行から新しく文がはじまるときは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

三
人
で
に
じ
の
ふ
も
と
を
主
人
で
さ
が
し
に
行
く

お
姉
ち
ゃ
ん
が
聞
き
ま
し
た
が
わ
か
り
ま
せ
ん

あ
る
の
か
な
ど
こ
か
ら
出
て
る
の
か
な

に
じ
て
ふ
し
ぎ
だ
ね
ど
う
し
て
い
ろ
ん
な
色
が

と、お兄ちゃん
がさげびました。

と、お兄ちゃん
がさげびました。

ずっと小さいころに
お兄ちゃんとお姉
ちゃん

に
じ
の
ふ
も
と

す
ず
木
し
お
り

「。」「一マス

「。」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和6年度版 作文の友 2年

編集 「作文の友」編集委員会

三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会

〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

こんなことを
して いるよ



○目標
○関連

経験したことを伝えるために、簡単な構成を考えて、文章を書くことができる。

上「こんなことをして いるよ」

作文の友

～書くこと 大すき～

2



もくじ

〈教科書との関連〉

①	こんなことをして いるよ……2
	上「こんなことをして いるよ」
	・丸()、点()、かぎ() ……8
②	本は 友だち……10
	・読書かんそう文を 書こう
	上「二年生の 本だな」
③	絵を見て お話を 書こう……22
	上「絵を見て お話を 書こう」
④	「どうぶつカード」を 作ろう……26
	下「どうぶつカード」を 作ろう
⑤	同じところ、ちがうところ……29
	下「同じところ、ちがうところ」
⑥	くらべて つたえよう……31
	下「くらべて つたえよう」

指導展開例あり

家で していることを
友だちに つたえる 文しよ
うを 書きましよう。 友だち
が 分かりやすいように、文
しよの 組み立てを 考え
て 書きましよう。

書くことが きまったら、
くわしく 思い出して、じゆ
んじよよく 書いて みま
しよ。

一 友だちに つたえたい ことを 考え、メモに 書き
 出しましょう。教科書77ページの 青木さんの メモを
 手本に して、書きましょう。

のこと

○	○
○	○

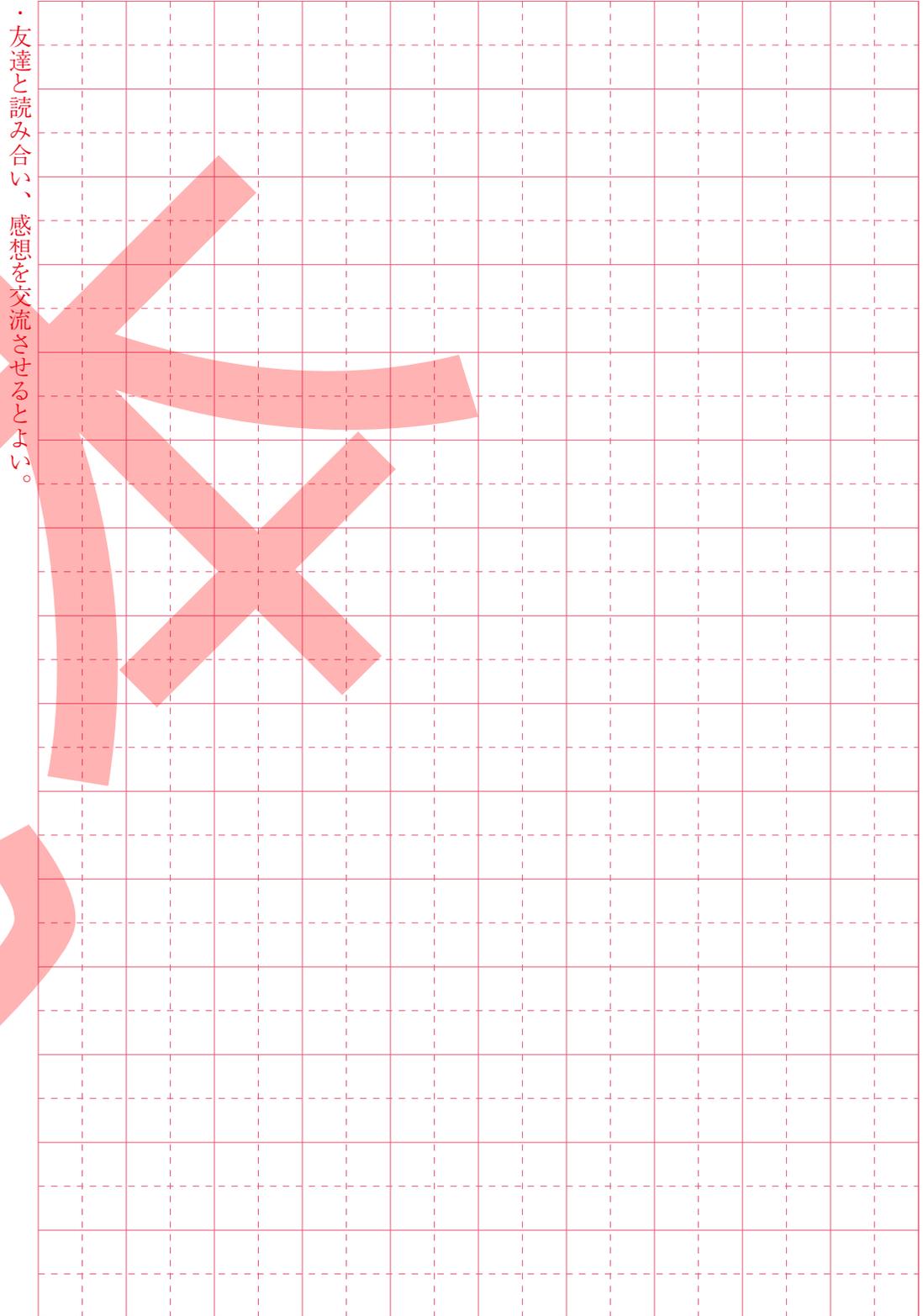
・順序を考えさせ○の中に番号を書かせる活動を入れる。
 ・できるだけ詳しく内容を書かせると、文章が書きやすい。

二 友だちが 書いた 文しようです。どんな じゆん
 じよで 書いて いるのか 読んで みましょう。

はじめ ○ぼくは、家でさらあらいをし ています。	○さらあらいをするとときは、 まず、よごれたさらを、水につけておき ます。つぎに、せんざいをつけた 中 スポンジで、さらをあらいます。 さらをわらないように気をつけて やさしくこすります。さいごに、 水であわをながします。さらあら いをするとおかあさんが、
--------------------------------	---

はじめ
何について
つたえるかを 書く。

中
つたえたい ことに
ついて、くわしく 書く。



・友達と読み合い、感想を交流させるとよい。

丸(まる)。(と)点(てん)。(の)つかい方(かた)

○教科書80ページを読んで、上の文(ぶん)し(し)よう(よう)を、下の原(げん)こ(こ)う(う)用(よう)紙(し)に正しい書き方で書きうつしましょう。

ぼくは、家でさらあらいをしています。
さらあらいをするときは、まず、よごれたさらを、水につけておきます。そして、せんざいをつけたスポンジ

ぼくは、家でさらあらいをしています。
さらあらいをするときは、まず、よごれたさらを、水につけておきます。そして、せんざいをつけたスポンジ

かぎ(「)の つかい方

○教科書80ページを 読んで、上の 文しようを、下の 原こう用紙に 正しい 書き方で 書き直しましよう。

きのう、家で風のゆう
びんやさんを音読しま
した。
おかあさんに、「読む
はやさが、ちよーどよ
いね。読み方が、どん
どん上手になっっている
よ。と言われて、うれ
しくなりました。

きのう、家で「風の
ゆうびんやさん」を音
読しました。
おかあさんに、
「読むはやさが、ちよ
うどよいね。読み方
が、どどん上手に
なっっているよ。」
と言われて、うれしく
なりました。

○目標 読書に興味を持ち、心に残ったことを取り上げて、読書感想文を書くことができる。
○関連 上「二年生の 本だな」

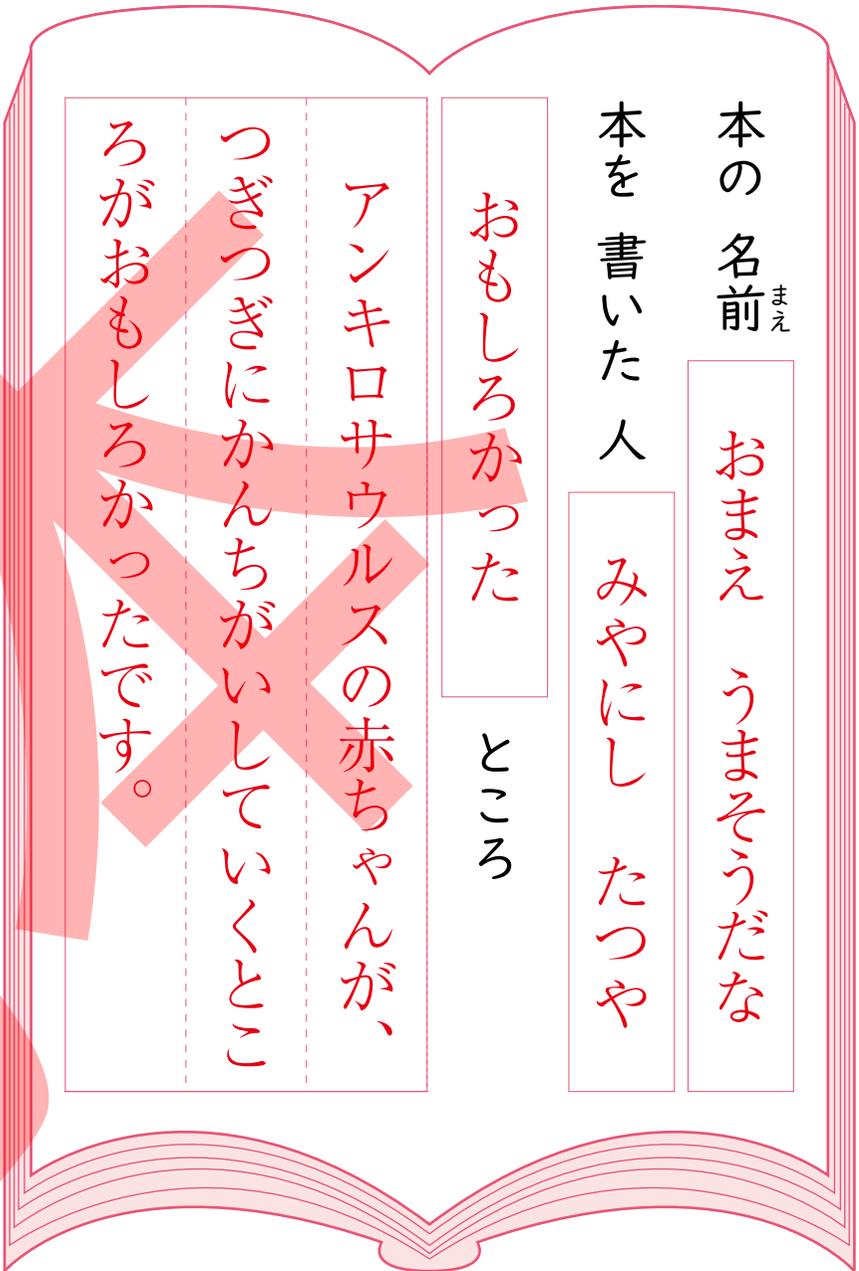
本は 友だち

—読書かんそう文を 書こう—



本を 読んだ あと、おもしろかった ところや かなしくなっってしまった ところなど、心にのこっこころて いる ことが ありますね。
本を 読んで、思った こと や かんじた ことを 文しよぶんしように した ものを、読書かんどくしよそう文と いいまします。
読書かんそう文を 書いて みましよう。

一 あなたの読んだお話の^{はなし}ことを「お話カード」に書いてみましょう。



・本を読んで感じたことを書かせるとよい。



心にのこったところ
 ・おもしろかったところ
 ・やさしいと思ったところ
 ・かなしかったところ
 など

二 よし子さんは、「おまえ うまそうだな」という本を^を読んで、アからオについて書き出しながらかんそう文を書きました。読んでみましょう。

ア この本を 読む ことになった わけ

国語の^{こくご} じゆぎょうで、「あしたも 友だち」というものがたりを 読みました。その後、先生が「おまえ うまそうだな」という本を しょうかいして くれたので 読んで みました。

イ お話の あらすじ

これは、大むかしの きょうりゆうのお話でした。テイラノサウルスを 自分のお話

お父さんだと 思いこんで しまった アンキロサウルスの 赤ちゃんが、いろいろ な かんちがいを くりかえす うちに、 だんだん 本当の 親子みたいに なって いくと いう お話でした。

ウ 心に のこった

ところ

・おもしろかったと
ころ

生まれたばかりの アンキロサウルスの 赤ちゃんが、つぎつぎに かんちがいして いくのが おもしろかったです。いちばん おもしろかったのは、ティラノサウルスに、 「おまえ うまそうだな。」と 言われた とき、自分の 名前を 「ウマソウ」だと

思いこんで しまった ところですよ。ここ は、声を出して わらって しまいました た。それに、自分の 名前を 知っている から お父さんだと かんちがいしたと ころも おもしろかったです。

・やさしいと 思った
ところ

それから、二人とも やさしいと 思い ました。ウマソウは、自分の 食べて い た 草を ティラノサウルスに あげまし た。でも、あまり すきそうじゃ なかつ たので、毎日、山から 赤い みを とつ て きました。ティラノサウルスは、肉食

なのに、それを食べて、「おいしいよ。」
と言ってあげました。それに、ウマソ
ウが キラントイサウルスに 食べられそ
うに なった とき、まもって あげたり、
いろんな ことを 教^{おし}えて あげたり し
ました。

わたしは、さいしょ、ウマソウは ティ
ラノサウルスに 食べられちゃうと 思っ
て ときどきしていたけれど、二人とも
とても やさしかったから、本当の 親子
みたいに なれたのだと 思いました。

・かなしかったとこ
ろ

いちばん さい後の おわかれする と
ころは、少^{すこ}し かなしくて、なみだが 出
そうに なりました。

エ 本を 読んで
思い出した こと
・にていると 思った
こと

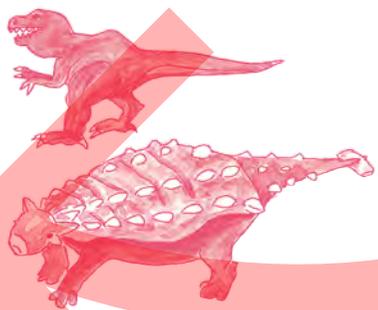
この 本を 読んで いたら、「あした
も 友だち」と にて いる ところを
見つけました。「あしたも 友だち」に
出てくる おおかみも、この 本の ティ
ラノサウルスも らんぼうものと きまっ
て いました。でも、二人とも 弱^{よわ}い あ
い手に やさしくして あげました。見た
目は こわそうでも、心は ちがうんだな

と 思いました。

オ 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

わたしには、今、ちょっと 話しにくい
友だちや、こわいと 思っている 人が
います。でも、ウマソウのように あい手
を いい 人だと 思って 話して みる
と、本当の 友だちに なれるかも しれ
ません。これから、にが手な 人とも、話
してみようかなと 思います。

著者 宮西達也
書名 「おまえうまそうだな」
発行所 ポプラ社



・上段と下段を照らし合わせながら読ませるとよい。

三 よし子さんの かんそう文を 手本に して、あなた
も 下の だんに 書いて みましよう。

本の名前

本を書いた人

ア この 本を 読む
ことになった わけ

イ お話の あらすじ

ウ 心にのこった ところ

- ・おもしろかったと
ころ
- ・やさしいと 思った
ところ
- ・かなしかった ところ

など

・書けない子には、すべての内容について書かなくてもよいことを助言するとよい。

エ 本を 読んで 思い出した こと

- ・もし 自分だったら
- ・まわりで おきた
にている こと
- はんたいの こと

才 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

四 ひょうを もとに、原こう用紙に 書きましよう。

○目標 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことができる。
○関連 上「絵を見て お話を 書こう」

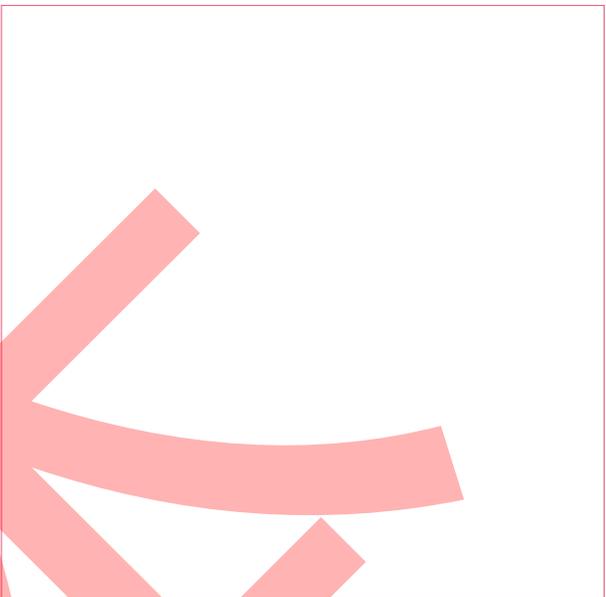
絵^えから そうぞうを 広^{ひろ}げ
て、お話を 書きましよう。
場^ばめんと 場^ばめんの つなが
りを 考えて 書きましよう。

絵を見て 書こう お話を



一 教科書135ページ③の 場めんでは、どんな できごと
が おこるでしょう。場めんの ようすや、人ぶつが
する ことを そうぞうして 書きましよう。

③



Two vertical rectangular boxes with red borders and dashed vertical lines, intended for writing the student's response to the prompt.

・②の場面と④の場面の二人の表情の違いに注目させる。

二 教科書136・137ページの お話の ③場めんを、人ぶつ
が することや、言う ことなどを よく 考えて
書きましよう。

A large grid for writing, consisting of solid red lines forming a grid and dashed red lines forming a grid within it. A small circle is drawn in the top right corner of the grid.

一 知りたい どうぶつについて しらべて 分かった
ことを せいりして、メモに 書き出しましょう。

Blank writing area with a dashed midline.

・教科書(下)P27を参考に文章を書かせるとよい。

二 知りたい ことと、しらべて 分かった こととを
分けて、しらべた どうぶつが よく 分かる 文し
ょうを 書きましよう。

知りたい こと

・くについて、知りたいと
思いました。

しらべて 分かった

こと

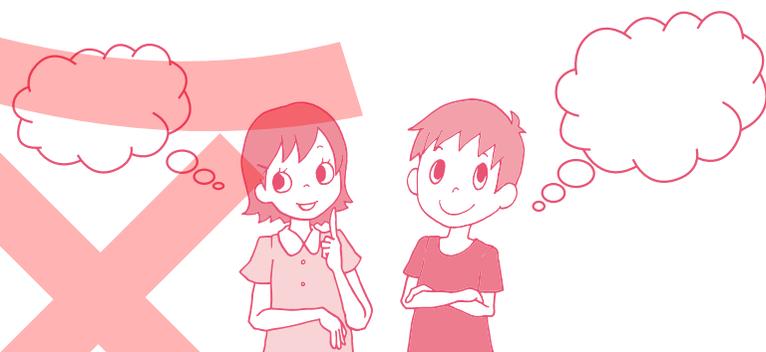
・…という ことが、分
かりました。

Blank writing area with a dashed midline.

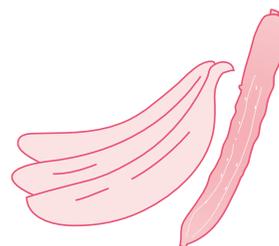
Blank writing area with a dashed midline.

・教科書(下)P25「どうぶつカード」の例を参考にするとよい。

同じところ、ちがうところ



二つのものをくらべて、**同じ**ところと**ちがう**ところを見つけましょう。
そして、同じところとちがうところを**せいり**しましょう。



同じところ、ちがうところ

① 二つの物を比べて同じところとちがうところを**せいり**して**みま**しましょう。
② 何をくらべたのか、どのように**書きま**しましょう。
また、自分でもくらべるところを**きめて**、くらべましょう。
同じところと、ちがうところを**ま**とめましょう。

「色」「形」「大きさ」「食べ方」
何をくらべたのかな。

くらべたところ	 [りんご]	 [なし]
色	赤色	うすいみどり色
形	丸い	丸い
大きさ	なしと同じ	りんごと同じ
食べ方	かわをむいて食べる	かわをむいて食べる

同じところ	ちがうところ
・形 ・大きさ ・食べ方	・色

○目標 同じ役割をもつものを比べて、同じところとちがうところを見つけることがうまくなる。ものの特徴をはっきりさせて、説明する文章を書くことがうまくなる。
○関連 下「くらべて つたえよう」

くらべて つたえよう



同じ やくわりをもつ
ものを くらべて、同じ
ところと ちがう ところ
を 見つけましょう。
そして、ものの とく
ちようをはっきりさせ
て せつ明する 文しよ
を 書きましょう。

一 みの回りに ある ものの中から、同じ やくわりをもつものを 書き出しましょう。

やくわり

やくわり

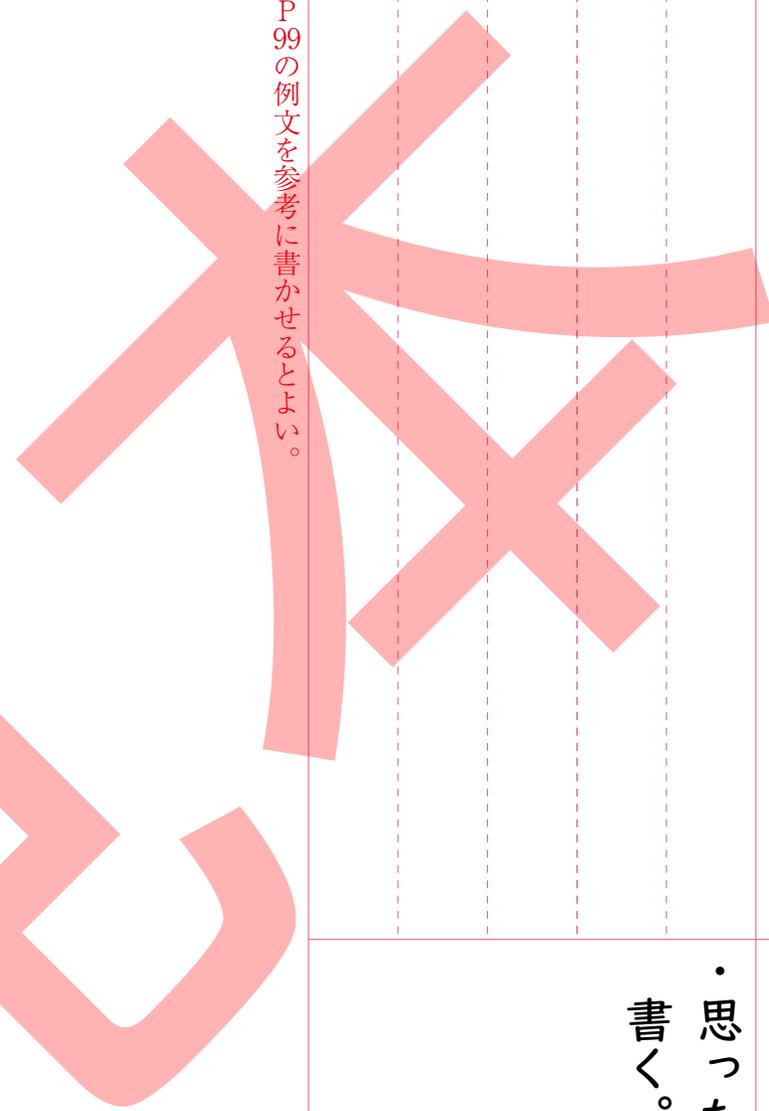
やくわり

やくわり

・教科書(下)P97を参考に、ものの役割を考えるとよい。

おわり	中
<p>・思った ことを書く。</p>	

・教科書(下)P99の例文を参考に書かせるとよい。



四 書き直した ほうが
つかって直しましたよう。
つかって、34ページの
文しようも直しましたよう。

(記ごうをつかって 直した文しよう)
(書き直した 文しよう)

まず、はさみとカッターの同じ
ところを、どちらも手をつかって
ものを切るところです。つぎに、
二つの道ぐのちがうところをせつ
明します。

一つ目は、はの数がちがいです。
はさみは、はの数が二つです。カ
ッターは、はの数が一つです。二
つ目は、はをかえられるかどうか
です。はさみは、はをかえること

まず、はさみとカッターの同じ
ところは、どちらも手をつかって
ものを切るところです。つぎに、
二つの道ぐのちがうところをせつ
明します。

一つ目は、はの数がちがいです。
はさみは、はの数が二つです。カ
ッターは、はの数が一つです。二
つ目は、はをかえられるかどうか
です。はさみは、はをかえること

書き直すときの 記ごう

文字を つけくわえる
行を かえる

書きかえる
一ます 下げる

とる

・表紙裏の「原稿用紙の使い方・書き直し方」も参考にするとよい。

こんなことをしているよ

《教科書との関連》

上「こんなことをしているよ」

一 学習目標

・経験したことを伝えるために、簡単な構成を考えて、文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 例文から、順序よく書く方法を学ばせる。
- 2 家でしていることを振り返りながら、友達に伝えたいことをメモに書かせる。
- 3 メモをもとに、文章の組み立てを考えて文章を書かせる。
- 4 友達と作品を読み合い、感想を交流させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 例文で作文の書き方を知る。 2 文章の組み立てを考える。 3 作文を書く。 4 感想を交流する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 (1) P2を読み、学習内容をつかむ。 (2) 書きたいことを思い出し、P3のメモに書く。 (設問一) 2 (1) 前時に書いた出来事の、文章の組み立てを考える。 (2) P4、P5の例文を読む。 (3) (2) どのような順序で書いているのか調べる。 ・順序を表す言葉を囲む。 (設問二) 3 メモをもとにして作文を書く。 (設問三) 4 友だちの作品を読み、感想を交流し合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師の範読を聞かせた後で各自に読ませる。 ○メモは、短い言葉で書くことをおさえておく。 2 選び方は、具体的に例を出して教えるとよい。 ○P4、P5の下欄の「はじめ」「中」「おわり」を参考にさせて、P3のメモに、番号をふらせる。 3 順序を表す言葉を使って文章を書かせる。 ○P8「丸()と点()のつかい方」に取り組ませたり、P9「かぎ(「」)のつかい方」に取り組ませたりするとよい。 4 文章の構成や順序を表す言葉に着目させて読ませるとよい。

本は 友だち

— 読書かんそう文を 書こう —

《教科書との関連》

上「二年生の 本だな」

一 学習目標

・読書に興味を持ち、心に残ったことを取り上げて、読書感想文を書くことができる。

二 指導事項

・心に残ったところや、自分の感じたこと、考えたことなどをまとめさせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 物語を選び、読む。 2 感想文の例を読む。 3 感想文を書く。 4 自分の感想文を原稿用紙に清書する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 (1) 物語の本を選んで読む。 (2) 読んだ本の名前や作者、本を読んでおもしろかったところをP11のカードに書く。 (設問一) 2 どんなことを書けばよいのか、確認しながらP12～P17の感想文の例を読む。 (設問二) 3 項目にそって、P18～P21に感想文を書く。 (設問三) 4 自分の感想文を原稿用紙に清書し、友達と読み合う。 (設問四) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新たに本を読むのではなく、これまでに読んだ本について書かせるのもよい。 2 上段と下段を照らし合わせて読ませる。 3 書けない子は、全ての項目について書かなくてもよいことを助言する。 4 正しく書けたか、表紙裏や教科書(上)P80を見て確かめさせるとよい。 ○グループや隣同士で読み合わせるとよい。

絵を見て お話を 書こう

《教科書との関連》

上「絵を見て お話を 書こう」

一 学習目標

・内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことができる。

二 指導事項

- 1 絵から、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像したことを話し合わせる。
- 2 場面の様子がよく分かるように、人物の行動や会話のつながりを考えて、物語を書かせる。
- 3 完成した物語を読み合い、感想を伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 絵を見て物語を想像する。 2 物語を書く。 3 書いた物語を読み合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書(上)P135の絵を見て、③の場面のできごとを想像し、絵や吹き出しを書く。(設問一) 2 教科書(上)P136、137の文章を読み、場面に様子や人物の行動、会話の内容などを想像し物語を書く。(設問二) 3 互いが書いた物語を読み合い、おもしろいと思ったところやよく書けているところなどについて感想を交流する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書(上)P135の②と④の場面の絵を比較させる。 2 自分が書いた物語を読み返して、分かりやすく書けているか、誤字脱字がないか、などを確かめさせる。 3 自分が書いた物語と比較しながら読むように声かけをする。 ○それぞれが書いた物語に表紙をつけ冊子にして、閲覧させてもよい。

「どうぶつカード」を作ろう

《教科書との関連》

下「どうぶつカード」を作ろう」

一 学習目標

・文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、分かりやすく文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 調べたい動物とその動物について知りたいことを決め、本を用いて調べさせる。
- 2 調べたことの中から知りたいことに合った内容のものを考えさせる。
- 3 調べたことをまとめた文章を書かせる。
- 4 友達と作品を読み合い、感想を交流させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 動物の調べたことをメモに書く。 2 文章を書く。 3 文章を読み合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 調べる動物の知りたいことをよく考えて、メモに書き出す。(設問一) 2 調べた動物のことがよく分かるように、くわしくカードに書く。(設問二) 3 友達と作品を読み、感想を伝え合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 知りたいことに関係のある言葉を探しながら、本で調べていくように声かけをする。 ○メモに書いた後に、しょうかいしたい項目を選ばせる。 2 知りたいことと調べて分かったことの内容がずれていないか確認させてから取りくませる。 3 知りたいことに対して調べたことが分かりやすく書かれているかに着目させて読ませるとよい。

同じところ、ちがうところ

《教科書との関連》

下「同じところ、ちがうところ」

一 学習目標

・二つの物を比べて同じところと違うところを見つけ、それらが明確に分かるよう書き表すことができる。

二 指導事項

- 1 比べる物に合った観点を見つけさせる。
- 2 同じところと違うところをそれぞれ整理し書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 二つの物の比べ方を知り、表にまとめる。</p>	<p>① P30の表を使って、二つの物の比べ方を知る。</p> <p>(1) 何を比べているのかを考えて、表の空欄に、「形」「大きさ」「食べ方」の言葉を選んで記入する。</p> <p>(2) 他にもどんなところを比べられるか考え、分かったことを記入して、表を完成させる。</p> <p>(3) 同じところと違うところはどこかをまとめる。</p>	<p>①○表を見て、何を比べているのかを考えさせることとで、比べるときの観点について理解させる。</p> <p>○比べたことを発表させ、比べるときの観点に対する理解を深めさせる。</p> <p>○同じところと違うところはどこか表を使って確かめる。</p>

くらべて つたえよう

《教科書との関連》

下「くらべて つたえよう」

一 学習目標

・同じ役割をもつものを比べて、同じところとちがうところを見つけることができる。

・ものの特徴をはっきりさせて、説明する文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 同じところとちがうところを整理して表に書かせる。
- 2 ものの特徴が伝わるように、説明する文章を書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 伝えることを決める。</p> <p>② 伝えることを整理する。</p> <p>③ 文章を書く。</p> <p>④ 読み返し、書き直した方がよい所を書き直す。</p> <p>⑤ 文章を読み合う。</p>	<p>① P32のメモを書き出す。</p> <p>(1) 身の回りにあるものの中から同じ役割のものを書き出す。</p> <p>(2) その中から二つ選ぶ。</p> <p>② 選んだ二つのものについて、比べる観点に従って、P33の表を作る。(設問二)</p> <p>③ 比べた表をもとにしてP34、35に書く。(設問三)</p> <p>④ 書いた文章を声に出して読み返し、書き直した方がよい所を書き直す。(設問四)</p> <p>⑤ 友達と読み合い、分かりやすく書けている所を伝え合う。</p>	<p>①○教科書(下)P97の例を参考に同じ役割のものを集めさせる。</p> <p>②○同じところとちがうところはどこか表を使って確かめさせる。</p> <p>③○教科書(下)P99の例を参考に文章の構成を意識して書かせることよい。</p> <p>④○表紙裏の例文を参考に書かせることよい。</p> <p>⑤○文章の構成や順序を表す言葉に着目させて読ませるとよい。</p>